

事業名	ブルーカーボン事業の評価手法及び効率的藻場形成・拡大技術の開発(脱炭素・環境対応プロジェクト)
予算区分	受託試験研究費(農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究)
事業実施期間	令和2～6年度
担当者	(海洋生産技術担当)中西達也, 多田篤司
共同研究機関等	国立研究開発法人, 水産研究・教育機構ほか

#### <目的>

地球規模で問題となっている二酸化炭素等の温室効果ガスの削減に向けて、二酸化炭素の吸収機能を持つ藻場の評価手法を開発する。また、脱炭素に向けた取組として、藻場の形成や海藻養殖の技術開発をおこなう。

#### <方法>

初年度は、おもに現地調査(①現存量調査、②環境DNA採水)をおこなった。

##### (1) 現存量調査・モニタリング候補地調査

牟岐(調査日:8月13日, 10月16日), 東由岐(令和3年1月29日), 志和岐(令和3年1月28日), 阿部(7月22日, 10月29日)において、潜水目視調査をおこなった。

##### (2) 生物相調査のための環境DNA採水

美波町恵比須浜岸壁において、8月20日以降週1回を基本としておこなった。

#### <結果>

##### (1) 現存量調査・モニタリング候補地調査

牟岐・古牟岐の植生は、大型海藻は見られないが、小型海藻ではマクサ及び有節・無節サンゴモが優占する群落があった。東由岐・坂の浜藻場造成区の植生は、ヤツマタモク、ヨレモクモドキ、エンドウモク、カジメがみられた。志和岐・藻場造成区の植生は、カジメ、ヨレモクモドキ、ヤナギモクがみられた。阿部は、カジメ、アラメ、トゲモク、ヤツマタモク、ヨレモクモドキ、ヤナギモク、エンドウモクがみられた。

現存量調査・モニタリング候補地として、カジメ、アラメは伊座利～阿部地先、温帯性ホンダワラ類は東由岐・坂の浜藻場造成区、小型海藻(褐藻・紅藻)及び小型海藻(サンゴモ)は牟岐地先が候補地と考えられた。

##### (2) 生物相調査のための環境DNA採水

サンプルは、水産研究・教育機構廿日市庁舎へ送付した。

#### <今後の課題>

藻場の効率的な形成と拡大技術のあり方について、関係機関と共通認識を持ち、役割分担を明確にする必要がある。

#### <次年度の計画>

現存量調査・モニタリングの継続。

#### <結果の発表・活用状況等>

特になし

<主要成果の具体的なデータ>



図1 牟岐・古牟岐の植生(10月16日)



図2 東由岐・坂の浜の植生(令和3年1月29日)



図3 志和岐の植生(令和3年1月28日)



図4 阿部の植生(7月22日)